

釧路湿原国立公園
釧路湿原生態系維持回復事業実施計画の改定について

1. 背景

実施計画（第 1 期）は 2018（平成 30）年 4 月に策定された。本計画の計画期間は 2018（平成 30）年 4 月 1 日から 2021（令和 3）年 3 月 31 日までの 3 年間としていたが、計画期間を 1 年延長し、2022（令和 4）年 3 月 31 日までの 4 年間に変更している。

「本計画の最終年度には、本計画に基づく対策及びモニタリングの結果等を踏まえた検証及び評価を行い、次期計画の策定に係る検討を行う。」こととしているため、本計画期間の最終年度である 2021（令和 3）年度に見直しを行う必要がある。

なお、上位計画である「釧路湿原生態系維持回復事業計画（平成 28 年 4 月）」と併せて検証及び評価を行う。

2. 見直しスケジュール

見直し作業は 2021（令和 3）年度内に行い、2022（令和 4）年度より運用する。例年、年度末に 1 回開催している釧路湿原エゾシカ対策検討会議を計 2 回開催して作業を進める。

<2020（令和 2）年度>

● 釧路湿原エゾシカ対策検討会議【R3.2.24】

釧路湿原生態系維持回復事業実施計画の見直し検討スケジュール及び改定案の方向性について確認する。

<2021（令和 3）年度>

● 第 1 回 釧路湿原エゾシカ対策検討会議【夏期～秋期】

実施計画（第 1 期）の 3 年間の総括・課題等を踏まえて次期計画の改定素案について議論し、助言を得る。

● 第 2 回 釧路湿原エゾシカ対策検討会議【2～3 月】

第 1 回会議を踏まえた次期計画の改定案を議論し、第 2 期計画として決定する。

<計画改訂に向けた主な論点>

■目標設定【現行計画の該当箇所：2-1基本方針】

できる限り数値目標の設定が望ましいが、科学的な妥当性や評価が容易か等の観点から、現実的な設定は可能か。

※現行計画の目標：「ラムサール条約登録（1980年）以前の状態（生態系）」

※数値目標の設定に係る過年度の議論・意見

<令和元年度>

- ・植生の目標については、注目種だけでなく、過去データにおける群落ごとの出現種数や多様度指数も目標の目安になると考える。また、シカ道が湿原独自の指標として活用できるのではないか。
- ・注目種の確認も必要だが、普通種も含めた群落全体の保全・維持回復という考え方が重要である。資料2-3で選定する植生指標種を含めた検討が求められる。
- ・来年度実施予定の航空機調査の結果を踏まえて、2期計画終了時の目標を検討すべき。
- ・個体数を指標にすれば捕獲目標の設定が難しい。環境省が譲れない「影響」を明確にすべき。
- ・高層・低層湿原の注目種の増減をもとにした管理の考え方も良いが、やや精密検査レベルであり、集団検診レベルで広域を俯瞰できるシカの影響調査が必要だと思う。その時は、シカの樹皮剥ぎなどの痕跡数や空中写真・ドローン等を使ったシカ道の密度等が指標になるのでは。

■個体数調整【2-2対策手法（1）、3-2実施区域及び候補地区における対策】

「実施地区」及び「候補地区」の考え方や捕獲手法等について、現行計画を変更すべき点があるか。

■植生の保護【2-2対策手法（2）】

植生保護柵の設置の検討方針等について、現行計画を変更すべき点があるか。

■モニタリング【4-1植生、4-2エゾシカの生息状況】

植生状況及びエゾシカ生息状況に係るモニタリングの手法等について、現行計画を変更すべき点があるか。